

# 編修趣意書

## 教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-7	中学校	美術科	美術	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	美術 702	美術 1		

## 1. 編修の基本方針

### 「うつくしい！を探しにいこう。」

身の回りの美しさに気づき、自分の手で美しいものをつくる楽しみや喜びを感じてほしい——そのような思いから、教科書の冒頭に「うつくしい！」という文章を掲げました。

未来を切りひらいていく生徒たちの感性を育み、ものを創造する力を身につけられるように、次のことを基底において編修しました。

#### 1 豊かな感性を育む

—— 美術に気づく目を養い、豊かな感性を育む教科書です。

生徒たちが身の回りにある美術に気づき、そのよさを感じ取ることができるように、手がかりとなる工夫を、紙面の随所に施しました。

#### 2 「表現すること」の喜びを感じる

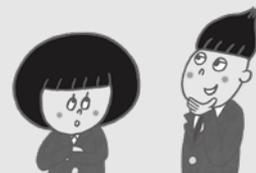
—— いろいろな表現のしかたを知り、表現することの喜びを感じることができる教科書です。

生徒たちが「もっと表現してみたい」と思えるように、作品の発想のしかたや表現技法などを具体的に示し、自分の表現に生かせるようにしました。また、掲載作品については、作者の表現の意図や工夫を考えさせる問いを示し、生徒が他者の表現についても理解が深められるようにしました。

#### 3 多様な価値観と出会う

—— さまざまな作品と出会い、多様な価値観にふれることができる教科書です。

多様な作品に出会えるよう、さまざまな国や地域、時代の作品を選び、掲載しました。また、生徒作品については、適宜作者の言葉を付し、作者の表現の意図や工夫がわかるように配慮しました。





# 2

## 「表現すること」の喜びを感じる

—— いろいろな表現のしかたを知り、表現することの喜びを感じることができる教科書です。

### 発想のしかたや表現技法などを、具体的に示しました

全ての表現中心の題材で、作品の発想のしかたや表現技法などを具体的に示し、生徒たちが自分の表現に生かせるようにしました。

身の回りのものをスケッチする題材では、さまざまな描画材を使った生徒作品を掲載し、「作者はなぜその描画材を使ったのか、何をあらわそうとしているのか」を考えさせる問いを示しました。

作品の発想・構想の手立てを、写真とともに詳しく示しました。



P.10~11「見つけ、感じ取り、描く」



P.58~59「どれで描く? どれで塗る?」

各題材の下部に、関連する巻末資料のページを示しています。さまざまな技法について詳しく知ることによって、生徒たちの表現の幅が広がります。

巻末の「学習を支える資料」では、色鉛筆、水彩絵の具、パステルなどの描画材について、詳しく紹介しています。

# 3

## 多様な価値観と出会う

—— さまざまな作品と出会い、多様な価値観にふれることができる教科書です。

### さまざまな国や地域，時代から掲載作品を選びました

生徒たちに美術文化の多様性を感じてほしいという思いから，日本や西洋だけでなく，さまざまな国や地域の作品を掲載しました。



P.40～41「生活をいろいろる文様」

さまざまな国や地域の仮面を鑑賞し、その違いや共通点を考える題材です。



P.56～57「世界の仮面と出会う」

### 生徒作品は，作者の表現の意図や工夫がわかるように掲載しました

多様な価値観にふれられるよう，各題材に，多くの生徒作品を掲載しています。「作者の言葉」を付したり，アイデアスケッチを掲載したりして，作者の表現の意図や工夫を感じ取れるようにしました。



生徒作品

I'm fine 紙、ポスターカラー 14×14cm

自分をあらわすマーク。左はアイデアスケッチ。自分の名前から発想を広げ、七つの案を考えた。片仮名の「ユ」の形をもとに作品を仕上げた。



生徒作品

レッド・バード  
型紙、モール、  
紙、洗濯ばさみ他  
高さ15cm

作者の言葉

幸運をもたらす鳥の鳥です。材料には金属を使って統一感を出しました。羽をきれいに神秘的に見せるために形や色を工夫しました。

多くの生徒作品に，アイデアスケッチや「作者の言葉」を付しました。

## 2. 対照表

### [ 第 1 学年 ]

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
はじめに	生徒自身が身に付ける幅広い知識と教養について理解し、真理を求める態度を養うよう、中学校3年間の美術科で学ぶことを概観した。【第一号】	P.6-9
	生徒が「うつくしい」と感じた瞬間や風景を撮影した写真を複数掲載し、お互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう配慮した。【第二号】	P.2-4
絵や彫刻など	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示するとともに、初めの「鑑賞」に問いを設定した。【第一号】	P.10-37
	美術の学習が、豊かな情操と道徳心を培うことにつながっていることを意識できるように、ページ下に適宜「道徳科とのつながり」マークを示し、道徳の学習と関連する内容を示した。【第一号】	P.16-17 P.30-37
	主体的な学習活動を通して判断力や真理を求める態度を養うよう、質感の異なる紙を使用し、生徒が関心をもって学習に臨めるよう配慮した。【第一号】	P.19-20
	お互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作家や生徒の作品を掲載した。作品には適宜「作者の言葉」を添えるとともに、作家の発想・構想をコラムとして示した。【第二号】	P.10-37
	自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うため、実際の中学生が制作する様子や生徒どうしで意見を交換する様子などを掲載した。【第三号】	P.11-12 P.15 P.17 P.23-24 P.27 P.29
	生命を尊び、自然を大切にすることを養うため、人物や自然物から感じ取ったことをもとに表現する題材を設定した。【第四号】	P.10-17 P.22-25 P.28-29
	伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養うため、我が国で大切にされてきた美術文化を積極的に掲載した。【第五号】	P.30-37
デザインや工芸など	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示するとともに、初めの「鑑賞」に問いを設定した。【第一号】	P.40-57
	生徒が、デザインと生活との関連に気づくよう、中学生の1日を例にとってデザインについて考えることのできるオリエンテーションのページを設定した。【第二号】	P.38-39
	お互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作家や生徒の作品を掲載するとともに、適宜「作者の言葉」を添えた。【第二号】	P.40-57
	自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うため、実際の中学生が制作する様子や生徒どうしで意見を交換する様子などを掲載した。【第三号】	P.41-42 P.45 P.47-48 P.53 P.55
	自然に親しみ、大切にすることを養うため、「文様」、「木工芸」、「焼き物」など、自然を取り入れ発展してきた美術文化を取り上げた。【第四号】	P.40-43 P.52-55
	他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、世界各国の作品を掲載し、共通点や違いを考える活動を設定した。【第五号】	P.40-41 P.56-57
学習を支える資料	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うよう、形や色、光に関する情報や、美術作品の鑑賞の手立てなどを整理して掲載した。【第一号】	P.74-78 P.80-81
	材料や用具の使い方などを汎用性の高い内容にまとめることで、生徒自身が必要に応じて参照し、自主及び自立の精神をもって学習を進められるよう配慮した。【第二号】	P.58-66 P.70-73

# 編修趣意書

## 学習指導要領との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-7	中学校	美術科	美術	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	美術 702	美術 1		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### 1 学習の流れを示し，主体的・対話的な学びへ

— 「表現」と「鑑賞」を一体的に学習する流れを示しました。

## 「表現」と「鑑賞」を一体的に学べる構成に

「表現」と「鑑賞」の相互関連を意識し，一つの題材の中で，「表現」と「鑑賞」を一体的に学べるような構成にしました。「表現」と「鑑賞」をアイコンで示し，学びの流れがひと目でわかるため，生徒が主体的に学習することができます。また，題材の初めに位置づけた「鑑賞」では，対話が生まれるような問いを示しました。



### 4 ページの表現中心の題材の場合



#### 鑑賞

題材の初めに，表現につながる鑑賞作品を掲載しました。対話が生まれるように，鑑賞が深まる問いを示しました。

#### 表現

発想  
構想

作品の発想を広げ，構想を練るための手立てを示しました。

#### 表現

みんなの  
工夫

中学生の制作の過程を，段階を追って詳しく示しました。

#### 鑑賞

題材の最後に，鑑賞を位置づけました。表現活動を行った後に，鑑賞することで，より理解が深まります。



P.22～25「心ひかれるこの風景」

## 2

# 発想や構想の力を育てる

—— 全ての題材について、発想や構想の手立てを示しました。

## 発想を広げ、構想を練るための具体的な手立てを示しました

### 表現 発想 構想

全ての題材に、生徒たちが発想を広げ、構想を練るための、具体的な手立てを示しました。

例えば、風景を描く題材では、「見慣れた風景を、新しい視点で捉え直してみよう」と投げかけ、光を意識する、構図を考えるなどの具体的な手立てを、写真とともに紹介しています。



P.23「心ひかれるこの風景」

## 生徒の制作過程をもっと詳しく

### 表現 みんなの工夫

4ページの表現中心の題材では、「みんなの工夫」と題し、2名の生徒の制作過程を詳しく紹介しています。実際の中学生が、どのように発想・構想し、試行錯誤しながら作品をつくりあげていったのかを知ることで、生徒が自分の表現に生かしていくことができます。

例えば、風景を描く題材では、「学校の『とっておきの場所』を描こう」という授業を取材し、2名の生徒の制作過程を紹介しています。身近な風景を、自分なりの視点で捉え、表現しようとする中学生の姿を見ることで、「自分だったら、風景をどう捉え、どう描くか」と、主体的に考えさせることができます。

### ●「みんなの工夫」が紹介されている題材

- ・「見つめ、感じ取り、描く」(P.12)
- ・「心ひかれるこの風景」(P.24)
- ・「生活をいろいろ文様」(P.42)



P.24「心ひかれるこの風景」

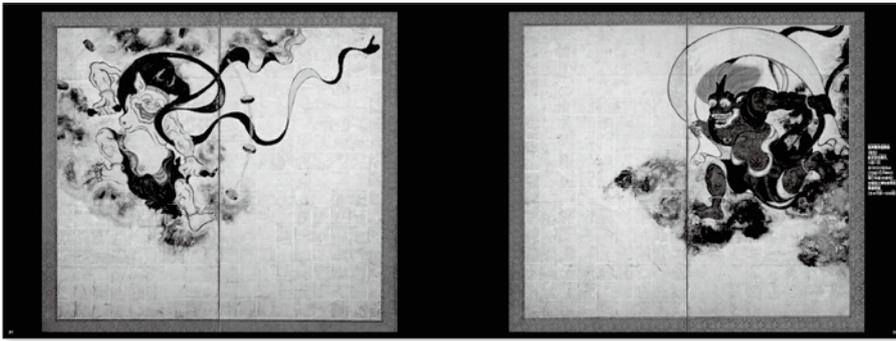
### 3

## 実感的に理解し、深い学びへ

—— 生徒の実感的な理解を深める工夫を、随所に施しました。

### より本物に近い感覚が味わえる鑑賞図版

鑑賞図版は、より本物に近い感覚で見ることができるよう、紙面での見せ方や紙質などに工夫を凝らしました。実感的な理解を促し、深い学びへつなげていくことができます。



P.31～34「風神雷神—受け継がれる日本の美」

俵屋宗達の「風神雷神図屏風」を、両観音開き(4ページ)で掲載しました。屏風の折り目と紙面の折り目を一致させ、屏風を見ているかのような感覚が味わえます。



P.18～19「版であらわす美しさ」

版画作品を鑑賞する題材では、版画紙のような風合いのある紙に印刷し、実際の版画を見ているような感覚が味わえます。

教科書の中の「二次元コード(QRコード)」を使って、鑑賞をもっと深める

#### 音声ガイド

大きく掲載されている鑑賞図版については、音声ガイドを聞くことができます。作者や作品の背景など、鑑賞をより深める音声ガイドです。

#### <360度動画>

立体の生徒作品については、いろいろな角度から鑑賞できる動画を見ることができます。

### 他教科とのつながりをわかりやすく

題材の随所に、他教科とのつながりを示すコラムを設け、美術での学びが他教科とどうつながるのか、実感をもって理解できるようにしました。

#### ●他教科とのつながりを示すコラム

- ・国語科 「古典文学と屏風絵」(P.37)
- ・数学科 「エッシャーの敷き詰め模様」(P.43)
- ・国語科 「漢字の成り立ち」(P.45)
- ・社会科 「火焰型土器 装飾に込めた願い」(P.53)
- ・家庭科 「生活を豊かにする食の文化」(P.55)
- ・理科 「自然が教えてくれるもの」(P.74)
- ・国語科 「美術鑑賞を広げる言葉」(P.80)

#### 国語科とのつながり

##### ●古典文学と屏風絵

屏風絵には、古典文学を題材にして描かれたものが多くある。例えば、上の「燕子花園屏風」は、平安時代中期の『伊勢物語』の中でよまれた和歌をもとにして描かれている。また、右の「源平合戦図屏風」は、『平家物語』の源氏と平氏との戦いを生き生きと描いたものだ。古典文学を「読む」だけでなく、「見る」おもしろさも味わおう。

源平合戦図屏風(部分)  
紙本金地着色、六曲一双 151.6×359cm 室町時代  
赤間神社蔵(山口県) 伝 狩野元信 [1476～1559]



形張りが、羅的を射る場面が描かれている。

P.37「古典文学と屏風絵」

## 教科書の特徴

編集上の留意点	
教育基本法・ 学校教育法との対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育基本法、学校教育法の理念を踏まえ、美術の学習を通して幅広い知識と教養を身につけ、さらに、「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」など、生きる力を支える能力を養えるよう配慮しました。</li> </ul>
学習指導要領との対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領の目標および内容をもれなく指導できるよう、題材を選定・作成しました。</li> <li>各題材の目標を明確にし、表現や鑑賞の活動を通して「発想や構想に関する資質・能力」、「技能に関する資質・能力」、「鑑賞に関する資質・能力」を着実に身につけられるよう、全体を通して系統的に配列しました。</li> <li>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、題材の構成を工夫しました。</li> </ul>
題材の配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」という分野ごとに構成し、題材の内容に応じて「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」と明記することで、生徒が学習の内容をイメージしやすいよう配慮しました。</li> <li>3学期制、2学期制どちらにも対応するよう、題材数、領域のバランスを工夫しました。</li> <li>巻末に、材料と用具や〔共通事項〕に関わる資料をまとめた「学習を支える資料」を設け、生徒が必要に応じて活用できるようにしました。</li> </ul>
掲載作品の選定	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階や、生徒の学習意欲を喚起することを考慮し、作品を選定しました。</li> <li>掲載作品については、地域や時代、性別に偏りが出ないように配慮し、また、生徒の主体的・対話的な学びが生まれるような作品を選定しました。</li> <li>多くの生徒作品を掲載し、特に発想・構想のしかたに着目して選定しました。</li> </ul>
主体的・対話的で 深い学びへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>各題材の最初に鑑賞図版を掲載し、生徒が主体的に作品を鑑賞し、かつ対話が生まれるような問いを示しました。</li> <li>各題材の学びの流れを明確にし、生徒が主体的に学習に取り組めるようにしました。</li> <li>生徒の制作過程を詳しく示すことで、「自分ならどう作品をつくりたいか」と主体的に考えられるよう、工夫しました。</li> <li>生徒が主体的に表現活動を行えるよう、巻末資料を充実させ、材料と用具、〔共通事項〕に関わる内容を詳しく示しました。</li> </ul>
道徳との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に道徳と関連する題材のページの左下には、「道徳科とのつながり」というマークを示し、生徒が道徳との関連を意識して学べるよう、工夫しました。</li> <li>東日本大震災などの自然災害の後につくられた美術作品や取り組みを随所で取り上げ、困難を乗り越え、よりよく生きようとする心を育めるように配慮しました。</li> <li>さまざまな国や地域の作品や、作家の個性を生かした作品を掲載することで、多様な価値観を認め、相互理解の心を育めるよう配慮しました。</li> </ul>
他教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に他教科と関連する題材には、「○○科とのつながり」というコラムを設け、他教科での学びを意識しながら、表現や鑑賞の活動が行えるように配慮しました。</li> </ul>
伝統・文化の 取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> <li>題材で適宜、伝統工芸を取り上げるなど、日本の伝統・文化への理解が深まるよう配慮しました。</li> </ul>
安全指導への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻末の「学習を支える資料」では、彫刻刀やのこぎりなどの道具を使う際の注意事項を、注意喚起のマークとともにわかりやすく示しました。</li> </ul>
知的財産権や 肖像権への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品には著作権があることや、それらを利用するときはルールを守ることを、注意喚起のマークとともに示しました。</li> </ul>
特別支援教育への配慮	<p>教科書のユニバーサルデザイン、カラーユニバーサルデザイン（色覚特性）と、学習上支援が必要な生徒のために、特に以下の点に配慮しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の全てのページについて、専門家の校閲を受けました。</li> <li>図版と図版の間を空けたり、罫線を引いたりして、境界を明確に区別できるようにしました。</li> <li>全学年を通して、文字がやや小さくなる場合は、読みやすさを強調してつくられたUD（ユニバーサルデザイン）フォントを使用しました。</li> </ul>
製本・印刷など	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞図版や文字が鮮明に印刷できる、発色のよいコート紙を使用しています。</li> <li>環境への負荷が少ない、用紙・植物油インキを用いています。</li> <li>製本は堅牢で、生徒がページを開きやすいよう綴じ方にも工夫をしています。</li> <li>鑑賞活動がより深まるように、版画を鑑賞する題材では、版画紙のような風合いのある紙に印刷をしています。</li> </ul>
図画工作との接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術での学習を明るくスタートできるよう、導入として、「美術って何だろう?」「美術で学ぶこと」というページを設け、生徒が3年間の学びを見通し、これからの学習に期待感もてるよう工夫しました。</li> <li>デザインの題材に入る前には「デザインって何だろう?」というページを設け、デザインそのものへの理解が深められるよう、配慮しました。</li> </ul>

## 2. 対照表

[ 第 1 学年 ]

図書の構成・内容		学習指導要領の内容			該当箇所
		A 表現	B 鑑賞	[共通事項]	
はじめに	うつくしい!		(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.2-4
	美術って何だろう?		(1) ア (ア)	(1) アイ	P.6-7
	美術で学ぶこと	(2) ア (ア)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.8-9
絵や彫刻など	見つめ、感じ取り、描く	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.10-13
	自然の形や色を見つめて	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.14-15
	人のしぐさを捉える	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.16-17
	版であらわす美しさ		(1) ア (ア)	(1) アイ	P.18-19
	絵から物語をつむぐ		(1) ア (ア)	(1) アイ	P.20-21
	心ひかれるこの風景	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.22-25
	見えないものをあらわす	(1) ア (ア) (2) ア (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.26-27
	材料に命を吹き込む	(1) ア (ア) (2) ア (ア)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.28-29
風神雷神 — 受け継がれる日本の美		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.30-37	
デザインや工芸など	デザインって何だろう?		(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.38-39
	生活をいろいろの文様	(1) イ (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.40-43
	文字で楽しく伝える	(1) イ (イ) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.44-45
	印象に残るシンボルマーク	(1) イ (イ) (2) ア (ア)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.46-47
	気持ちを伝えるデザイン	(1) イ (イ) (2) ア (ア)	(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.48-49
	形や材料を比べてみよう		(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.50-51
	生活の中の焼き物	(1) イ (ウ) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.52-53
	木と親しむ暮らし	(1) イ (ウ) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.54-55
	世界の仮面と出会う		(1) ア (イ) イ (イ)	(1) アイ	P.56-57
学習を支える資料	どれで描く? どれで塗る?	(2) ア (ア) (イ)		(1) アイ	P.58-59
	描いてみよう	(2) ア (ア) (イ)		(1) アイ	P.60-61
	さまざまな描き方	(2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.62-63
	版画の楽しみ	(2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.64-65
	文字をデザインする	(2) ア (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.66-67
	紙でつくる	(2) ア (ア)	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.68-69
	粘土でつくる	(2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.70-71
	木でつくる	(2) ア (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.72-73
	形の世界を知ろう	(1) ア (ア) イ (ア) (イ) (ウ) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.74-75
	色や光の特徴を知ろう	(1) ア (ア) イ (ア) (イ) (ウ) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.76-78
	美術館を楽しもう		(1) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.79
美術鑑賞を楽しむ手がかり		(1) ア (ア) (イ)	(1) アイ	P.80-81	